ニューヨーク研修を経験して

この度2023/0812-2023/0827の期間NYで研修を行わせていただきました。今回の研修を通して私は、英語でのコミュニケーション能力を向上させ、奥手な所を克服できればいいなと思っていました。元々旅行が好きでしたがコロナ禍もあり海外に行く機会がしばらくなく研修に向かう前は英語で話すことが不安でした。いざNYについてみると現地の人は日本と違い（「今日の調子はどう？」、「その服似合ってるね」など）日常のコミュニケーションに関してアクティブな印象を受けました。細かい発音の仕方の違いなどで会話内容がうまく伝わらないこともありましたが研修を通して成長できたのではないかと感じています。
以下各研修で教わり、感じたことを記載します。

ペース大学ではMedical InterviewやPhysical examinationを教わりました。
そもそも症状の英単語を知らないこともあって最初は全く話を聞くことが出来ませんでした。練習を通して相手に共感していることを表現したり相手の発言を繰り返すことによって自分の理解度を伝えたりすることが少しずつ出来るようになっていったのが嬉しかったです。ObserverやSPの方が面接の最後にフィードバックをくれたのも参考になりました。聞き手側の努力が少なくなるような配慮を心がけようと思いました。
レクチャーでは逐一質疑応答があり日本ではあまり質問をするタイプではなく受動的な態度だったのですがNYでは周りの環境もあり積極的に質問をしたり講義のシミュレーションに参加したりと能動的な姿勢になることが出来ました。

また泉丘高校出身でブロードウェイで演者として活躍された南由水先生とワークショップも行わせていただきました。自分も泉丘高校出身でありお話を伺う前から何となく親近感を感じておりました。印象に残っているのはNYで外国人の方と会話してそれを報告するという課題です。僕は研修に際して洋服の枚数が少なく洗濯を頻繁に行う必要があったので薬局で洗濯洗剤を買うために店員の方とお話したことを報告しました。新しいことに挑戦することに抵抗がありましたが、教えていただいたstep out of your comfort zone.という言葉に従い色々なことに挑戦することの楽しさを教わりました。また言葉を話さずに名詞や動詞を伝えるゲームを体験し非言語コミュニケーションのみでも意思疎通は可能であることを身をもって体験できたのも良かったです。

Phelps hospitalでは現地のレジデントの先生とお昼ごはんを一緒に食べたり模擬患者を相手に治療薬や検査を考えました。シミュレーションでは喉頭鏡の長さが日本とは全然違って直線的で長かったことに衝撃を受けました。実際の診療を想定してトレーニングを積め、成長を実感しやすい点が素晴らしいなと思いました。

Shadowingでは安西先生とアソマ先生、リバーバー先生の元を訪れさせていただきました。NYではどのような患者が来院されるのか、また診療や検査の日本との違いについて学ぶ事ができました。先生方の勤務にあたって大変なことや医師、患者という関係でなく個人として親身に診療にあたる様子を見学し見習いたいと感じました。

Mt.Sinaiでは病院、大学、寮を案内してもらい、講義はオンラインで参加すればよく、大学内にスタジオが設置されてあること、また寮に4-6人で同居し生活していることに衝撃をうけました。Mt.Sinaiでは座学中心ではなくどのように診療にあたるかのシミュレーションを行うことが多いようでした。個人的に病院の建築がルーヴル美術館やグッゲンハイム美術館の建築家と同じ人であるという話が面白かったです。

森下先生のラボでは臨界期に関連する遺伝子研究のお話を聞きました。初期研修終了後渡米している先生や森下先生自身のキャリアの話を聞く事ができたのも興味深かったです。研究についてあまり知らないことが多かったですがいい刺激を受けることができました。

最後になりますがこのような素晴らしい経験のために協力してくださった講師の方々やJMSA,大学のスタッフの方々に心より感謝申し上げます。頼もしい同期や後輩と一緒に研修を行うことができたことも誇らしいです。細かい記載はできませんが観光などの課外活動も十分に行うことができとても満足感のある研修でした。今後もこのプログラムが続き皆様が実りある研修を行えることを心よりお祈りしております。

- 金沢大学附属病院研修医　櫻井